

郷音

いびき

東京福社会だより

第105号

通刊128号
令和8年冬号

「響」とは「郷」の「音」と書きます。

私ども東京福社会では、この温かなものを大切に
「心に響く葬儀」を目指しております。

今号のエッセイ

十人十色

【じゅうにんという】

想いを継いで…

女優・エッセイスト

池波志乃さん



新年のご挨拶／特養部門のご報告
法要のご報告／お彼岸について／わの会のご案内
会友制度のご案内／写経教室
終活セミナーのご案内／人形供養のご案内



東京スカイツリーと富士山

百年の信頼—大正8年創立—



社会福祉法人 東京福社会

東京福社会だより「響」は、個人・団体会友や当会をご利用いただいた皆様をはじめ、都内の各福祉事務所・施設などにお届けしております

東京福社会 催し物のお知らせ

終活セミナーのご案内

〈会場〉
江古田
斎場

「ペットのおみおくり」

日時：2月8日(日) 10時～11時
講師：エンジェルトリミング SORA

「介護セミナー」

日時：2月24日(火) 10時～11時
講師：東京福社会職員

〈会場〉
道灌山
会館

「終活と葬儀の基礎知識」

日時：1月16日(金) 10時～11時
講師：東京福社会職員

「生前整理と遺品整理」

日時：3月2日(月) 10時～11時
講師：(株) リリーフ

〈会場〉
第2練馬
高松園

「介護セミナー」

日時：1月22日(木) 10時～11時
講師：東京福社会職員

人形・ぬいぐるみ供養のご案内

法要開催日：3月19日(木)

11時～12時 江古田斎場

お預かり期間：3月9日(月)～3月15日(日)
10時～15時

お預かり場所：

道灌山会館(東京都文京区千駄木3-52-1)
江古田斎場(東京都練馬区小竹町1-61-1)
ホール多摩国立(東京都国立市谷保892-1)

お預かり費用：無料

受付方法

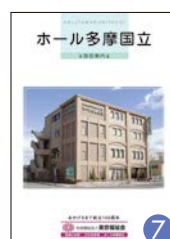
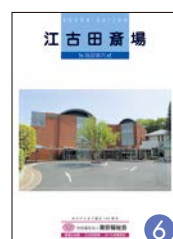
お預かり期間内に、各直営斎場にお人形と宛名裏面の申込用紙をご記入の上、ご持参ください。

※郵送によるお預かりは致しかねます。
お預かりできるサイズや種類等、詳しくは申込用紙に掲載しております。
ご不明な点は渉外部までお問い合わせください。



資料請求

ご葬儀に関する詳しい資料(料金、式場等)をご用意しています。
下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。



- ①会友のご案内・申込書一式
- ②葬祭のご案内
- ③ご火葬のみプランのご案内
- ④オプション品のご案内
- ⑤道灌山会館のご案内
- ⑥江古田斎場のご案内
- ⑦ホール多摩国立のご案内
- ⑧聖恩山霊園のご案内
- ⑨葬儀のあとの手続き・届け出事典



お問い合わせ・お申し込み 東京福社会 渉外部

電話 | 0120-00-5677 ※9:00～17:00(土日を除く)
E-mail | info@fukushikai.com
URL | https://www.fukushikai.com

東京福社会

検索



※お急ぎの方はお手数ですが ☎0120-62-1192 までご連絡をお願いいたします。

響では読者の皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

東京福社会だより「響」
第105号(通刊128号) 令和8年1月発行
発行所 社会福祉法人 東京福社会
〒113-0022
東京都文京区千駄木3-52-1
電話 03(3823)8026



「東京福社会だより(響)」は
環境に優しいベジタブルインキ
で印刷しています。

6月10月

「美味しいイベント」を開催しました。



台湾バナナ

当会高齢者施設では、昨年6月に東京善意銀行様を通じ、学校法人神戸学園様より「台湾バナナ」をいただきました。チョコバナナやバナナジュースにし、おやつとして提供いたしました。

焼き芋の会



これからもご利用者の皆様に喜んでいただけるように、いろいろな企画をしていきたいと思えます。

10月には焼き芋の会を開催し、久しぶりのたき火の光景に「昔はよく落ち葉でたき火をしたよね。」などと利用者様同士の会話も弾み、楽しいひと時でした。もちろん焼き芋も大好評で、皆様の美味しい笑顔がたくさん見られました。

11月

防災訓練のご報告



起震車体験

昨年11月6日、第3練馬高松園にて、光が丘消防署立会いのもと、高松町会、当会施設3園での4者合同防災訓練を実施しました。起震車体験、消火器やAEDの操作演習を行いました。起震車では震度7の揺れを体験し、想像以上の揺れの激しさに怖さを感じました。消火器やAEDの演習では、数年ぶりに操作をした参加者もありました。



AED演習



水消火器演習

今回の訓練を通して、日頃からの備えへの大切さを改めて実感しました。今後も地域の避難拠点として防災意識を高める活動に、取り組んでまいります。

新年のご挨拶

社会福祉法人東京福祉会
会長 原山 陽一



謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は、東京福祉会の活動に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、私儀、去る6月30日をもって、理事長を退任し、会長に就任いたしました。15年にわたる理事長在任中は、皆様の温かいご厚情と、役員一同の尽力のおかげで、充実した日々を過ごさせていただき、心より感謝申し上げます。

これからは、その経験と知見を活かし、組織の羅針盤として、東京福祉会の大所高所からの見守りと、新体制への円滑な助言・支援に専念してまいります。

丙午の年、当会は新体制のもと、さらなる飛躍を目指してまいります。会友・地域の皆様におかれましても、新理事長と新執行部に對し、これまでと変わらぬ、いやそれ以上のご指導ご鞭撻を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。本年が皆様にとって、幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

令和八年 元旦

社会福祉法人東京福祉会
理事長 目黒 克昭



新年あけましておめでとうございます。令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。おかげさまで当会も創立から107年目の春を迎えることができました。これもひとえに皆様方のご支援、ご指導の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

昨今、葬儀に関する料金トラブルの増加や火葬料金の高騰、新たなサービスの登場など、葬儀業界を取り巻く様々なニュースが取り上げられ、葬儀・終活への関心が高まっています。当会も創業者の精神を胸に、サービスの透明性と利便性の向上に努め、故人様お一人おひとりの人生を映し出す「その方らしいお別れの時間」を作り上げてまいります。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和八年 元旦

池波志乃

女優・エッセイスト

2026年、桜の開花を待つ頃には、一人で過ごす2回目の結婚記念日を迎えます。今の私にとって、命日より結婚記念日が中尾との思い出が詰まった大切な日です。それは、終活を始めたきっかけとも重なるからです。

中尾がこの欄に寄稿させていた

だったのは7年前。終活に向けた片付けがもうほとんど済んでいた頃で、「終活は前向きな整理であ

想いを継いで…

ること」「新しく物を増やす時の注意点」「よく話し合うことの大切さ」、そして、終活を始めたきっかけについても少し触れています。

相次ぐ入院が
終活のきっかけに

終活を考え始めたのは、中尾が66歳の時に肺炎球菌に感染して重篤な合併症を引き起こし、一時は

生存確率20%と言われ、転院も含めて2ヶ月ほど入院したときのことでした。中尾はそれまで病气らしい病気で休んだこともなく、健康には自信があった為、ほとんど検査をしなかったことも反省点ですが、とにかく本人は大きなショックを受けたと思います。

実は、その前の年には私が「フィッシャー症候群」という自己免疫疾患で倒れて入院し、なんと同じ時期に、当時同居していた私の母も癌で入院・手術となっていました。私は倒れる数年前に女優業は引退しており、エッセイや書評を書いたり、また、沖

縄に事務所を持っていたことから、入院先は沖縄の病院でした。母が入院したのはアトリエがあった千葉県の病院でしたから、私と母は離れた病院のベッドから携帯で話をして励ましあったものです。

その頃、中尾はドラマ・バラエティーの口ケと忙しくあちこち飛び回る毎日。私と母が入院するまでは、東京のマンションと沖縄のマンション、千葉のアトリエの3か所を三人それぞれで行き来しながら、充実した日々を送っていたのですが、そのうち二人が入院という状況に。後に、私が快復し、中尾と共に母の病院に駆けつける

と、母は待つてくれたのかのよう

うに、その5日後に静かに息を引

き取りました。

生前も旅立つときも
きちんとした母らしく

母は、落語家・金原亭馬生のおかみさんとして、父の事だけでなくお弟子さん達の世話をしつつ、私達三姉妹を育て、一時は舅姑の介護をし、その後は自分の両親も引き取って自宅介護をして看取りました。しかもその間に私の父、馬生が食道癌と診断されたのですが、当時はその手術をすれば成功

しても声を失うと言われ、「命のある限り、落語家として生きたい」という父の強い意向を汲んで、母も私たちも従うしかありませんでした。母は49歳で自動車免許を取り、父の送り迎えをして、父に付き添い、食事のできない父のためスープを作り、最後の最後まで自宅療養で支え、看取りました。

父と母はその時代でも、元気な時からしっかりと話し合っていたのです。父の望み通りに見送った母は、父がやっていった俳句を続け、句会でも活躍し、周りに気を配りなが

ら明るく過ごしていました。

そんな母が亡くなった時には、自身のものは全てきちんと整理されていて、私たちに世話をかけるどころか、そもそも自ら緩和ケア病棟に申し込んでいるような人でした。そのベッド脇の引き出しには一枚のレポート用紙があり、亡くなった後の連絡事項・区役所などの連絡場所、お寺、葬儀社、連絡する知人…その電話番号が書かれていて、入院費用に関することから通帳その他必要書類に至るまで揃えてありました。

結婚記念日を
終活に向けた対話の日

私たちは、母がやっていたことの大切さを痛感し、人はいつ病に倒れるか分からないという怖さを実感しました。この体験が、元気なうちに終活を始めるきっかけになったのです。母はそのお手本でした。

終活の中でも、物の片付けだけなら今でも多くの方がやっていることでもあり、日常で言いづら

いなんてことはなくなっているの

ではないでしょうか。けれど、難

しいのはお互いの気持ちの部分：

いざという時にやってほしいこと、

やらないでくれということを具体的

に話しておくことだと思います。

日常で唐突に「死んだときの話」

をするのはやはり憚られますよね。

でも、お互いが元気ならば、その

一番のチャンスが結婚記念日です。

とはいえ、私たちもそれまでは、

仕事のタイミングがうまく合えば

食事に行って乾杯するとか、家で

ご馳走を作って良いワインを開け

るくらいでした。ところが終活を

始めてからは、お互いに「こま

でよく頑張ったね！これからもよ

ろしく！」という気持ちで自然に

池波 志乃 (いけなみ・しの)

1955年東京都西日暮里生まれ。
父は落語家10代目金原亭馬生、祖父は古今亭志ん生という落語界の名門に生まれ、俳優小劇場養成所を経て新国劇に入る。
1973年ドラマ「女ねずみ小僧」でデビュー。
1974年NHK連続テレビ小説「鳩子の海」で注目され、以降「悪魔の手毬唄」「鬼平犯科帳」など映画、テレビドラマ、舞台、多数出演。
2019年NHK大河ドラマ「いだてん〜東京オリムピック騒ぎ」で20年ぶりの女優復帰。
中尾彬さんとは、芸能界きっての「おしどり夫婦」として広く親しまれた。

わの会のご案内

今後の開催予定

開催場所: 江古田斎場

和の時Ⅰ (講話会)

日時: 1月27日(火) 11時～13時

和の時Ⅱ (法話と座談会)

日時: 2月8日(日) 11時～13時

話の時 (グルーブトーク)

日時: 3月25日(水) 11時～13時



東京福祉会のグリーフケア「わの会」は、葬儀を終えられた方々が経験される『大切な方との死別によって生じる悲嘆(グリーフ)』を少しでも癒していただきたいとの思いで、僧侶でカウンセラーでもある三橋尚伸先生をお招きし定期的に開催しております。

昨年は延べ180名の方が参加され、先生の話に和み癒され(和)、ご自身の経験や思いを話され(話)、同じ経験をされた方々とのつながり(輪)を作られていました。また、悲嘆が癒され「わの会」を笑顔で卒業される方も多くいらっしゃいました。

「わの会」のご案内は開催1か月前頃に、当会にて葬儀を終えられたご遺族の方にお送りしておりますが、それ以外の方でもご参加は可能です。ご参加のお申し込みやお問い合わせは当会渉外部(巻末の連絡先)までお気軽にご連絡ください。

少しの負担で“もしも”を支える 会友制度のご案内

東京福祉会の会友制度は生前に加入金1万円をいただくのみで、もしもの時に皆様をサポートする10の特典をご利用いただけます。

年会費・更新費・積立金は一切不要になっており、3親等までご親族は同じ特典をご利用いただけます。また、会友の方からの紹介者制度もございますので、ぜひご検討ください。

特典1 基本葬祭料金30%割引

特典2 喪主生花10%割引

特典3 生花1基サービス

特典4 直営斎場利用料50%割引

(※特典には一定の条件がございます)

その他、様々な特典をご用意！
詳しくは巻末のご連絡先まで



「写経教室」のご案内

コロナ禍で中止しておりました会友向け「くらしの学習講座」写経教室を再開いたします。

「写経」は功德を積むための修行として広まりました。一文字ずつ集中して写していくことで心が落ち着き、浄められていくとされています。

お持ちいただくもの

小筆、硯、墨(墨汁可)、
下敷き、文鎮

当日、道具の販売もありますが、数に限りがございますので、なるべく道具はご持参ください。筆や硯の代わりに筆ペンでも参加いただけます。

開催日: 2月18日(水) 10:00～12:00

定員: 先着30名

参加費: 無料

申込方法

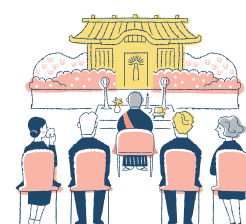
東京福祉会渉外部(巻末の連絡先)までお電話ください

報告 秋季彼岸会法要 物故者慰霊法要

江古田斎場・聖恩山霊園では、昨年9月20日、21日に秋季彼岸会法要を、11月6日に物故者慰霊法要を厳かに執り行いました。彼岸会法要では620名のご遺族が参列され、慰霊法要では当会会長、理事長をはじめ役員が参加し、導師の読経とお焼香を行いました。ご参列いただいたご遺族の皆様、誠にありがとうございました。故人の皆様とのお縁を大切にし、安らかに眠りいただくことを心よりお祈り申し上げます。

春季彼岸会法要の ご案内

今年も当会納骨堂「聖恩山霊園」「第二聖恩山霊園」春季彼岸会法要を3月21日、22日に江古田斎場にて執り行います。詳しくは2月ごろ、別途ご案内をお送りさせていただきます。



物故者慰霊法要



秋季彼岸会法要

暑さ寒さも彼岸まで ご先祖様との距離が近くなる 特別な一週間

日本には古くから伝わる季節の節目があります

が、その一つが「彼岸」です。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がある通り、この時期を境に気候ががらりと変わるのを感じます。(最近では気候変動でその時期がずれることも増えてきましたが)

「彼岸」の語源は仏教にあります。仏教では、私たちが生きる迷いや煩悩に満ちたこの世を「此岸」、そして悟りの境地である仏の世界(極楽浄土)を「彼岸」と呼びます。

春分の日と秋分の日、太陽が真東から昇り、真西に沈む特別な日です。仏の世界である「彼岸」は西にあるとされているため、この日

は此岸と彼岸が直線で結ばれ、ご先祖様のいる世界と私たちがいる世界が最も近くなると考えられました。また、真西に太陽が沈む春分・秋分の日、昼夜の長さが等しくなることから、お釈迦様の教えである、かたよりのない考え方「中道」を表すといわれています。

この特別な期間に、私たちはご先祖様を供養し、感謝の気持ちを捧げるのです。

季節の変わり目に、私たちに立ち止まる機会を与えてくれる彼岸。ご先祖様に感謝し、家族との団らんを大切にしながら、心穏やかに過ごしてみたいいかがでしょうか。

